

2012年度第3回避難の課題の調査・分析部会（都市避難問題） 議事次第
（津波等の突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会）
2013年度の研究活動・成果について

日時：2013年度1月29日（火） 10時から（2時間程度）

場所：工学院大学新宿校舎・20階第6会議室 +Google Hangouts

本部会の活動計画（第一回WG資料より）

○現状調査：

国・自治体（地震被害想定・地域防災計画・条例、各種災害時の事前対策と危機管理体制・その他の対策、避難計画・用語、帰宅困難者・災害時要援護者・多数傷病者対応など）

エリア・地域、民間・住民（事例調査など：新宿駅周辺地域など大規模駅ターミナル周辺地域）

過去の災害・対策事例の整理（各都市の災害史：関東大震災・伊勢湾台風・ハリケーンカトリーナ・東日本大震災など）、関連学協会、その他

○東京・大阪・名古屋・その他の地方都市（事例）、内容の分担確認

○各委員による事例研究・調査

例：最悪被害想定への対応：対策はレベル1・2（建築はレベル3まで）で異なるはず

例：広域・マルチハザードへの対応：火災と津波、避難・避難所・用語、対応機関・部局

例：事例研究として、新宿駅周辺地域の帰宅困難者（郊外へ移動）と周辺住民（中野区などの都心部移動）の群衆シミュレーションなど

本部会の成果・報告書のイメージ

○主な内容（案）

1. 都市のハザード・リスクと防災・避難対策の現状（一般論）

・様々なハザード（地震動、津波、延焼火災、洪水、高潮、液状化、地滑り、土石流、噴火、群衆・・・）

・被害想定（ハザード・リスク）：内閣府・推進本部、自治体など

・対策の現状：地域防災計画、BCP/DCP、主な対策（ハード・ソフト、避難所・避難場所・避難計画、教育・啓蒙・訓練など）、対策の担い手（自治体の部局）、自助・共助・公助

2. 事例（被害想定・対策）と課題（個別・具体例）

実例：東京、名古屋、大阪、京都、新宿駅周辺地域、東京低地・・・()

課題：最悪想定について（レベル1、レベル2、建築ではレベル3・4など）、マルチハザードへの対応（同時発生への対応、できれば群衆シミュレーションなども）、対応部局の縦割り、国・自治体の役割、事前対策、モニタリング・危機管理（意志決定・責任者・ICSなど）、用語の統一

3. 課題整理・提言??

新たな研究課題、研究と実務への応用、啓蒙・教育、自助・共助・公助、国・自治体

○議論

誰に向けての報告書か？ 学会員、自治体・事業者の防災担当者、一般市民・・・

→研究成果は学会発表、論文・報告へ

親委員会との調整、分量、媒体（冊子・HP・CD・・・）、締切、予算、役割分担（次回以降?）